

授業科目名: サステナビリティ研究基礎 A	単位数 2単位	担当教員名: 専任教員及び兼任教員 担当形態: オムニバス、共同
配当年次: 1 年次前期	授業形態: 講義・演習	開講形態: 集中・メディア(一部)
授業のテーマ及び到達目標: <p>本科目では、本共同専攻のサステナビリティ研究の基盤となる基本的学識及びその応用力を効果的に修得できるように、講義と演習を組み合わせる授業を行う。また、サステナビリティという概念に体现されている「持続可能な開発目標(SDGs)」に係る国際社会の要請と、SDGs を支える基本的な正義の観念や倫理観についても学ぶ。</p> <p>講義では、本共同専攻において必要とされる基礎的な学識を概括的かつ体系的に学ぶ。国際社会の現場で求められる論理的かつ多元的思考の基盤となる国際感覚(国際的センス)を涵養し、公的、民間機関にかかわらず国際開発戦略/計画を立案・実施する際に基本となる普遍的かつ実践的な学識を修得して、国際通用性のある基礎的学識について説明できることを目標とする。</p> <p>演習では、本共同専攻で必要とされる学識について、文理協働ディスカッション、PBL・異分野交流ディベート・ファシリテーションによるワークショップ形式を通じて実践的かつ協働的に学ぶ。国際社会の現場で求められる論理的かつ多元的思考の展開に重要となるエビデンス・ベースの問題発見・解決能力を醸成するための演習を行い、現代国際社会が抱える諸問題を理論的かつ実践的に理解でき、多様な文化や価値観を尊重しつつ、諸課題に対する改善策を提案できる柔軟かつ複眼的な構想力やプレゼンテーション技法を身につけて、実践できることを目標とする。</p>		
授業の概要: <p>本科目は、第1部の講義と演習(第1～16回)と第2部のワークショップ演習(第17～23回)から構成される。講義は英語で行い、演習、セミナー、実習においては、学生の理解度に合わせ、英語と日本語を併用する。この併用は日本語を解さない学生に不利益を与えないことを条件とする。</p> <p>第1部の講義では、サステナビリティ研究の基盤をなす学識と素材を提供する。具体的には、現代グローバリゼーションの本質と現代国際社会を取り巻く仕組みや課題について講義する。そのうえで SDGs やレジリエンスなどの国際通用性のある多元的文化理論、現代社会の課題ならびに国際標準化やその背景にある知的財産権や国際社会の倫理について概説する。また講義で学んだ学識の内容理解を深化させるとともに応用力を高めるため、講義と連動させながら、文理協働ディスカッションまたは異分野交流ディベート形式による演習を行う。</p> <p>第2部ワークショップ演習では、PBL・異分野交流ファシリテーションによるワークショップ形式により、サステナビリティの主要素である「経済成長」、「社会的包摂」、「環境保護」に関する地球規模的課題の本質とその解決策について考察する。具体的には、専門が異なる学生から編成されるチーム単位で特定のテーマを選択し、広範な視点で社会の持続可能性を捉えながら、その現状の把握や課題解決に向けた構想、実現可能性のある方策を検討する。検討結果をポスターに取りまとめ、最終報告する。ポスター報告の際にはエビデンス・ベースを念頭におき、報告後、多様な観点から質疑応答を行う。テーマの候補は、貧困、紛争、食料問題、環境問題、資源・エネルギー問題等であり、受講生の興味によって決定する。</p>		

授業計画:

第1部 (講義と演習、奇数回は講義、偶数回は演習)

第1・2回 グローバリゼーション・現代国際社会/ SDGs・レジリエンス (東外大:武内・中山・李)

第3・4回 貧困/ 格差 / 正義/ 公正/ 倫理 (東外大:武内・中山・李)

第5・6回 紛争/ 平和構築 / 援助 (東外大:武内)

第7・8回 移民/ 人権/ ジェンダー (東外大:李)

第9・10回 開発(発展)/都市(global city, gentrification etc.) (東外大:中山)

第11・12回 人間開発 / 食料/ 資源/ エネルギー (農工大:千年・野村)

第13・14回 国際ルールと標準化 (農工大:江藤)

第15・16回 知的財産権と国際社会の倫理(特に技術者倫理) (農工大:江藤)

各担当者は授業中に随時、レポートを課す。

第2部(ワークショップ演習)

第17回~21回 チーム単位での特定テーマに関する検討 (農工大:香取・千年・野村・三沢
電通大:横井・岡田・橋山・山本)

第22・23回 検討結果の報告会:チーム単位での報告及び質疑応答 (農工大:香取・千年・野村・三沢
電通大:横井・岡田・橋山・山本)

テキスト:特になし

参考書・参考資料等:World Bank. *World Development Report*, 各年次版。

UNDP, *Human Development Report*, 各年次版, ほか各回の授業で配布/紹介する。

学生に対する評価: 受講状況とレポート、テーマごとの報告内容等により総合的に評価する。